

平成26年10月発行（第5号）

ウォーキングパトロール隊通信

ウォーキングパトロール隊
事務局

安曇野市豊科5704番地2
安曇野警察署 生活安全課内
0263-72-0110



「全国地域安全運動」 出発式を実施しました

10月11日から始まる「全国地域安全運動」を広くアピールするため、前日の10月10日、「ウォーキングパトロール隊」の皆さんと、安曇野市内の各小・中学校の「青色回転灯パトロール車」、パトカーによる合同出発式を実施しました。

約40名の「ウォーキングパトロール隊」の皆さんと、7台の青色回転灯パトロール車、6台のパトカーが一斉に、豊科駅入り口交差点へ向けてパトロールしました。



パトロール中の出来事



安曇野市堀金の吉田道昌様から投稿していただきました「ウォーキングパトロール日記」その3(最終回)を掲載します。

小学生と一緒に登校歩く楽しみ (最終回)

安曇野市堀金 吉田道昌

○月○日

雪が積もった。道幅が狭くなり、一車線になった。車のわだちの跡を歩く。車が来た。スピードをゆるめない。あわててランといっしょに新雪の中へ入り込んで避ける。雪はひざまであった。車はスピードを出して走り去った。ひどい車だ。

○月○日

雨の中、傘をさして歩く。後ろから赤い車が来た。道路に水たまりがある。やばい、と思って立ち止まると、車はバシッと水たまりに突っ込み、しまったと思ったときは遅かった。ズボンがびしょぬれになった。車はそのまま走り去った。

○月○日

登校中、一年生の女の子が、「鬼ごっこしよ」と言いだした。上堀の保育園までの道は車が来ない。鬼ごっこしながら行く。つかまる前に腕を胸のところで交差して「バリア」と言うと、タッチできない。たいへん楽しい。

○月○日

「安曇野にパブリック・フット・パスを」と、ぼくは5年前から提唱している。みんなで作る、誰が歩いてもよい道だ。イギリス発祥のパブリック・フット・パス。「人間は歩く権利を持っている」と、イギリス全土に網の目のようにめぐらされた。小川沿い、農道、路地、牧場の中、湖水のほとり、私道、個人の庭の中も含めて、既にある道で車が通らない道をみんなで作っている。指定した道には小さな立て札を分岐点に立てている。日本でもその実践を取り入れ、市民や自治体がフット・パスを作っているところがある。街、村、田の畦、林、小川のほとり、里山のなかを歩く。そこにある自然や暮らしや景色を楽しむ。人と出会い人とあいさつを交わす。ヨーロッパでは、環境や風土、伝統を守ろうとする精神性が高く、文化として結晶している。美しい景観や環境を守り育てようとする意識が絆をつくり、健康にも役立っている。

安曇野には歩く文化が育っていない。

ぼくは今日も、パブリック・フット・パスを意識して、アルプス公園から岩堀、倉田、上堀と探索しながら歩いた。フット・パスに指定したい道、コースがいくつもある。

一緒にこの運動をする仲間がほしい。ウォーキングパトロール隊員がもっと増えて、つながっていったら、安心して暮らせる美しい安曇野に寄与できるだろう。

3回にわたり、吉田様からの「小学生と一緒に登校 歩く楽しみ」を掲載させていただきました。大変残念ですが、今回が最終回となりました。吉田様、貴重な体験談をありがとうございました。

事務局では、皆様からのご意見・ご要望・パトロール中の出来事・活動写真等をお待ちしていますので、郵送・ファックス・メール等でお寄せください。

